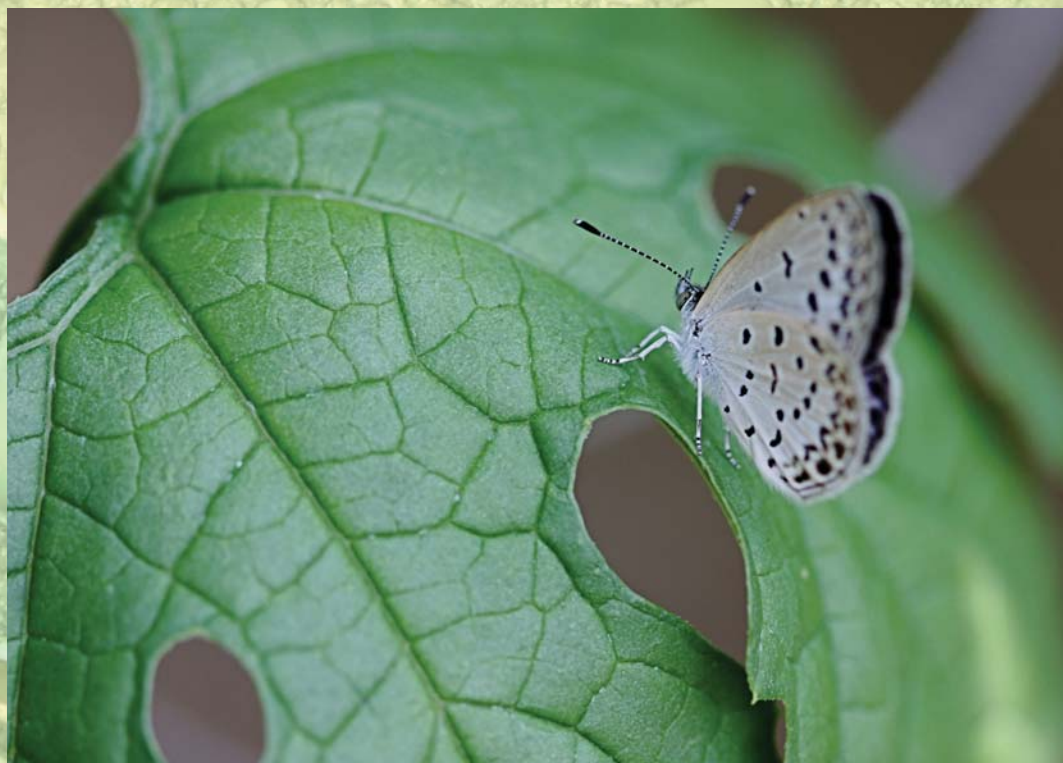


2008

株式会社 教材研究所 環境活動報告



■ごあいさつ

環境活動を通じて社会貢献を

地球は、太陽から適度な距離を保ち、適当な大きさを持つことによって生命が生まれ育ってきた奇跡の存在です。しかし、産業革命以来のエネルギー革命や科学技術の進歩により、人間の生活は確かに豊かに、便利にはなってきたものの、その活動によって大自然のバランスを崩しつつあります。

私たちはKESの活動を通じて、企業として環境問題に取り組むことを決意しました。そして、環境負荷をできるだけ小さくするだけでなく、社業や対外活動を通じて、積極的に社会の環境意識を高める活動に寄与できるよう日々努力しています。

ここに、当社の本年度の活動をご報告致します。ご高覧のうえ、さらなる進展に向けてご指導賜りますよう、お願い申し上げます。

2008年8月

株式会社教材研究所

基本理念

株式会社教材研究所（以下当社）は、環境を守り、次代に伝えることが、地球上に生きる私たちに共通する問題であり、特に先進工業国・消費大国である日本人として最重要課題の一つであることを認識し、全組織をあげて環境負荷の低減に努力します。

方針

当社は、教育図書・資料等出版物の製造・販売にかかわるすべての活動、製品及びサービスの環境影響を低減するために、次の方針に基づき、環境マネジメント活動を推進して、地球環境との調和をめざします。

1. 当社の活動、製品及びサービスにかかわる環境影響を常に認識し、環境汚染の予防を推進するとともに、環境マネジメント活動の継続的改善を図ります。
2. 当社の活動、製品及びサービスにかかわる環境関連の法的及びその他の要求事項を順守します。
3. 当社の活動、製品及びサービスにかかわる環境影響のうち、以下の項目を環境管理重点テーマとして取り組みます。
 - (1) 環境関連企画の推進
 - (2) グリーン購入の推進
 - (3) 環境啓発活動・環境教育の推進
 - (4) 省エネルギー・省資源の推進
4. 一人ひとりが環境負荷低減活動を積極的に実践できるように、この環境宣言を全従業員に周知するとともに社外へも公表します。
5. 京のアジェンダ21フォーラムのパートナーシップに基づく地域の環境改善活動に積極的に参加します。

上記の方針達成のために、目標を設定し、定期的に見直し、環境マネジメント活動を推進します。

制定日：2002年8月20日

改訂日：2008年8月20日

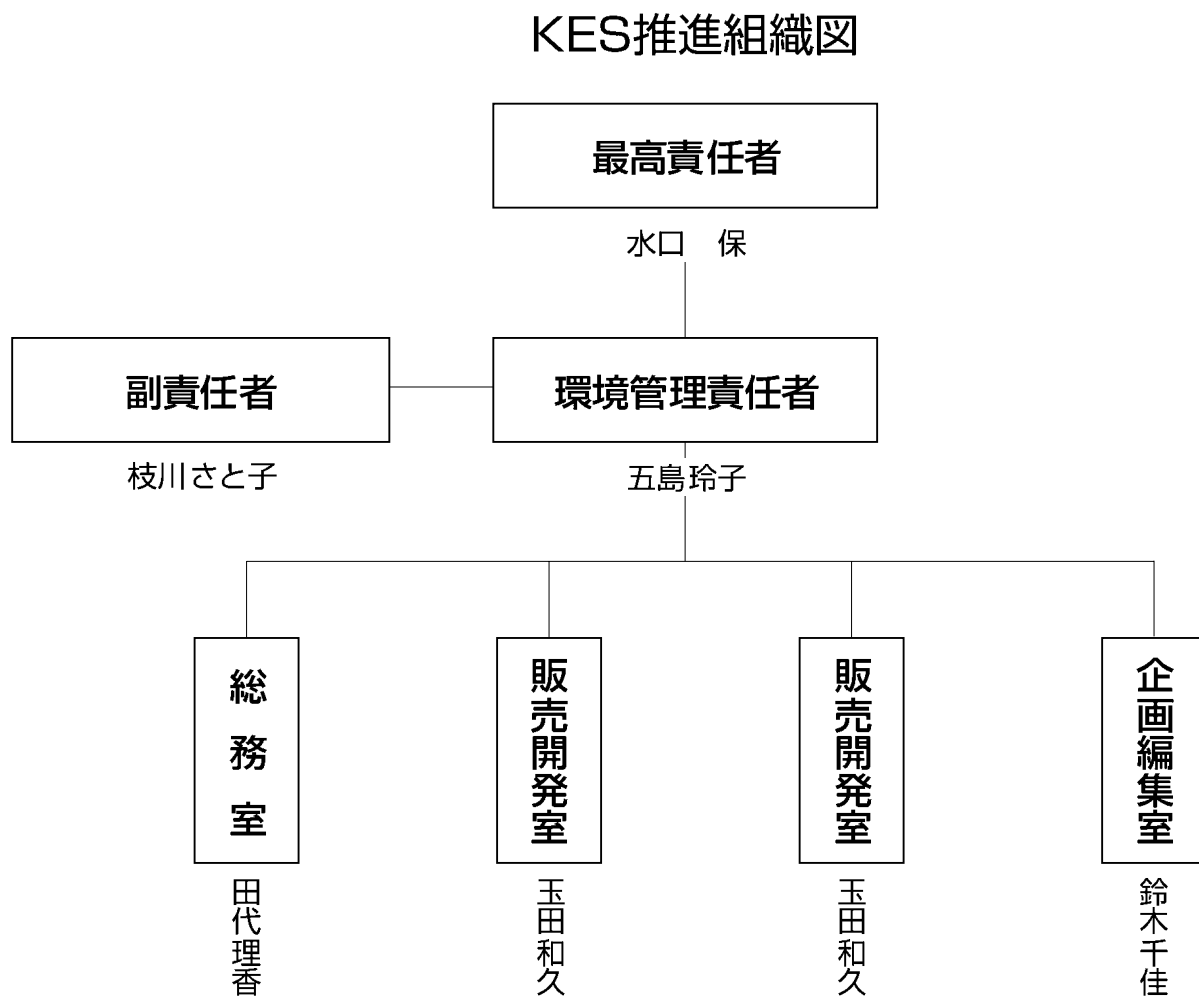
株式会社教材研究所

代表取締役専務 水口保

■会社概要

- (1) 会社名 株式会社教材研究所
- (2) 所在地 京都府京都市南区東九条河辺町21
- (3) 事業内容 修学旅行図書・教育図書の企画・製造・販売
- (4) 代表取締役 松岡 聖
- (5) 資本金 1,000万円
- (6) 従業員数 13名（うち嘱託3名、パート1名）
- (7) 敷地面積 553.19平方メートル
- (8) 延床面積 389.64平方メートル
- (9) 沿革
1953年8月1日 : 設立(松岡延行社長・京都市下京区河原町通り四条下ル寿ビル)
1971年4月1日 : 京都市南区西九条鳥居口町5に新築移転
2003年10月4日 : 創立50周年記念式典挙行
2006年10月30日 : 現社屋に移転

1. 環境活動の取り組み体制



2. 認証取得内容

KES登録証

登録日： 2003年11月29日

登録番号： KES1-0128

3. 環境活動の内容と実績

環境改善活動	具体的方策	目標値	今年度実績値	評価
環境関連 企画の開発	<ul style="list-style-type: none"> 環境関係団体との協働企画 自主企画開発 	4半期1企画 年間4企画	<実績> 年間目標4企画に対し、15企画 <目標達成率> 375%	A
ネットワーク づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> KESのPR KES認証取得希望企業の支援 	企業へのKES説明会を4半期1社 (年間4社)	<実績> 4社 <目標達成率> 100%	A
環境教育の 徹底	<ul style="list-style-type: none"> メルマガに環境問題に関する項目を設ける 環境関連セミナーに出席し、その成果を社員に発信する 	環境メルマガを毎月1回発信、あるいは環境関連のセミナーに参加する	<実績> メルマガは24回、セミナー参加は3回の合計27回 <目標達成率> 225%	A
グリーン 購入の推進	<ul style="list-style-type: none"> グリーン商品の調査 物品購入申請書書式の変更 グリーン商品優先購入奨励 	文房具等消耗品のグリーン商品比率を40%以上に	<実績> グリーン商品の比率66% <目標達成率> 188%	A

4. 具体的環境活動の紹介

初年度は他社と同様にエネルギー消費の改善活動を行い、大きな成果を得られたが、すぐに頭打ちとなった。また、当社のような事務系企業では、それほど大きな環境負荷を与えているわけでもないところから、永続的目標とはなり得ないと感じ、方向性の転換を迫られた。

そこで、プラス思考で立案したのが、制作会社・出版社であるという当社の強みをより生かせる目標であった。

①環境関連企画の開発

KES活動をより積極的に社業に生かすべく、環境関連の仕事の受注活動・出版活動を通じて売上にも貢献するというもので、





玄関の環境宣言



冷暖房の温度設定



節水の呼びかけ



裏紙の分別と再利用

社員のやる気を喚起できるだけでなく、そのことを社会貢献にもつなげたいと構想した。

②ネットワークづくり

自社のKES活動におけるノウハウを関係企業にPRすることにより、KES認証取得を促すとともに、側面から支援する活動である。

大企業ではグリーン調達ということで、関係企業のEMS認証取得を推進しているが、中小零細企業では困難な場合が多く、当社としては認証取得を義務づける方策はとらず、支援するという形をとった。

④環境教育の実施

以上の目標を達成するには、社員の環境に対する意識を向上させることが必須であるという考えから、環境教育の徹底を目標に掲げた。ただし、繁忙を極める職場もあるため、全員を集める講義形式は避け、メルマガで発信することとした。

また、地域における環境に関するセミナーにも積極的に参加し、その成果を社員同士で分かち合うことも具体的な方策としてあげた。

④その他の活動

・グリーン購入の推進については、グリーン購入ネットワークにも加盟し、年々その比率を高めることを目標として掲げた。

・省エネルギーの推進については、目標とはしないが、定期的な数値チェックにより、維持管理目標とした。

5. 環境関連法規の遵守状況

大気汚染物質・水質汚濁物質・騒音・振動等の違反について、関係機関からの指摘・訴訟等はなかった。

6. 活動の評価と今後の問題点

①環境関連企画の開発について

4半期に1企画（年間4企画）を実現して業績に貢献する目標を掲げて受注活動を行った結果、年間15企画が実現でき、目標を大きく上回ることができた。

最も大きな目標としていた自主企画については、昨年度具体的な企画が承認されたが、経済状況の悪化に伴い、一時中



断しているのは残念なことである。今後、実現に向けて努力を重ねたい。

②ネットワークづくり

4社に対してPR活動を行った。最高責任者の決断には至らなかったが、年々企業の関心は高まっており、手応えを感じている。ただし、この業界は少人数で繁忙を極める会社が多く、KES取得による業務増加が最大の懸念材料であり、これを説得できる材料として、より大きなメリット——すなわちマネジメントシステムが浸透するという説明をするようにしている。次年度以降、さらに説明を続けていきたい。

③環境教育の実施

メルマガによる発信、セミナーへの参加とも目標は達成できたが、社員の多くは受け身であり、また教育の結果の測定も困難であるところから、具体的実施方策として改善の必要性がある。また、セミナーへの参加者も限定されており、さらに多くの社員を参加させるためには、方策を十分検討すべきだろう。

④その他の活動

・グリーン購入については、物品購入申請書にグリーン商品か否かのチェック欄があり、購入担当者はグリーン商品から優先的に購入するシステムをとっていることも寄与して、目標を大きく上回る事ができた。

・省エネルギーの維持管理については、前ページの写真の通り、きめ細かい掲示によって注意を喚起しており、社員の省エネルギーに対する理解はかなり深まっている。しかし、今年度は夏季に繁忙期が重なったため、前年度と比較して大きく数値自体は上がってしまったが、妥当な数字と認識している。引き続き、省エネルギー活動には取り組んでいく。



第三者の証明・意見

<審査機関の証明>

- 株式会社教材研究所の審査を担当したものとして、同社がトップから従業員全員にいたるまで環境への意識が高く積極的に環境改善活動に取組まれ、日々環境宣言達成のために継続して努力されていることを確認しています。KESステップ1の要求事項に合致しています。 KESステップ1の要求項目に合致しています。

KES主幹審査員

増野 玲子

<利害関係者の感想>

当社の環境目標として実施している「KES認証取得支援活動」を実施後、各企業から寄せられた感想をまとめました。

- KESがマネジメントシステムの一つであることが理解でき、取り組む価値があることを確認できた。現在、印刷用紙を取り扱う会社として、FSC森林認証（CoC）を取得したので、次の目標として真剣に検討したい。

柿本商事株式会社

シニアマネージャー 尚永 均

- 印刷会社の中でも認証を受けている会社がふえているので、当社でも検討に値すると思った。将来グリーン調達が進んでくるとビジネスをしていく上で、生き残っていけない可能性があることを会社に訴えたい。

株式会社スイッチ・ティフ

専務取締役 土橋 佳浩

- 旅館はサービス業なので、すぐに取り組むのは大変難しく、考えるところですが、地球温暖化が問題化してくるので、今後は真剣に考えていかないといけないと感じています。

祇園料理旅館花楽

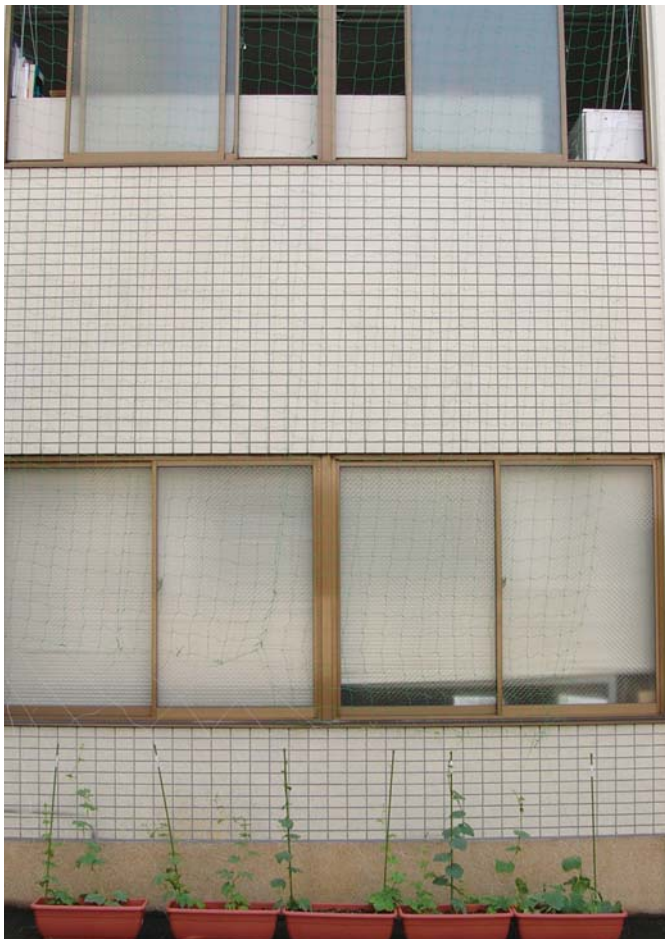
若女将 杉本裕美子

壁面緑化試行に挑戦！

来年度の本格実施に備え、今年度はゴーヤとヘチマを試験的に栽培した。
予想以上により結果が得られ、本格実施に向けて自信をつけた



6月30日■プランターに苗を植える



7月10日■日に日にツルが伸びてきた



7月11日■初めて花が咲いた！



7月15日■ヘチマの生育がよい。自動給水の工夫もした



7月22日■ゴーヤの花と実



9月23日■ヘチマはたくさん収穫することができた



9月23日■2階の窓は覆い尽くし、一部は3階まで届いた。



Kyozai Kenkyusho 2008